

●暑い中にも「涼」を探しましょう。

まだまだ厳しい暑さが続いています。「涼」を探しつつ、史跡や文化財で歴史を感じてみましょう。

●おみたらせの清水に沿って・・・

●駐車場から①「おみたらせの清水」の石碑の脇を抜けて、せせらぎを横断。桃のアーチを抜けて中山台のガッチャンポンで水遊び。ブランコの木を過ぎたら右方向へ進みます。この辺は涼しい風の通り道。その先に見えてくるのは②「徳源院跡」です。5代古河公方足利義氏の息女・氏姫の法号から徳源院と称した寺の跡。義氏の遺骸の一部が葬られたと考えられ「古河公方足利義氏墓所」として県指定史跡となっています。

①おみたらせの清水



②徳源院跡 (県指定史跡)



【野草紹介】A.「ガマ」は、ソーセージのような部分が雌花、その上に伸びているのが雄花です。

A.ガマ



③ヒマラヤスギの園路



●ヒマラヤスギの木陰を抜けて・・・

●公園の西端を南北へ抜ける園路は、ヒマラヤスギの木陰で快適。途中、足元にはそろそろヤブランが見られますよ。



ヤブラン

●古河公方に思いを馳せて・・・

●イヌシデやコナラが主体の、周囲を沼に囲まれた④「公方様の森」は、夏は涼しく昆虫もたくさん。かつてこの地には、古河公方やその子孫の御座所、別荘として使われた「古河公方館（鴻巣御所）」があり、⑤「古河公方館跡」として県指定文化財となっています。



④公方様の森



⑤古河公方館跡 (県指定文化財)

●古河公方と氏姫のおはなし

・鎌倉公方足利成氏が1455年に古河へ移り古河城を本拠地としたことから、古河公方と呼ばれたことに始まります。5代義氏の死後、先に紹介した氏姫が9歳で家督を相続。その後、氏姫は豊臣秀吉の命により足利国朝と政略結婚をさせられるも、この御所に留まり続けました。2年後に国朝が病死し、その弟頼氏と再婚、義親が誕生。その頃、頼氏は加増を受けたことなどから、事実上喜連川藩が誕生しますが、氏姫は御所に留まり生涯を終えます。息子の義親も氏姫の死後、喜連川に入ることなく御所に留まりました。義親の息子尊信も家督を継ぐまで御所で暮らしたそうですから、氏姫の思いを受け継いでいたのかもしれませんがね。

・ちなみに、公園の牧の地口から出て左（西）へ約350mほど行くと、松月院公園があります。ここには義親の正室である松月院の墓塔とされる史跡「松月院御所塚」があり、ゆかりの寺院「松月院」があったと想定されています。



B.オミナエシ

【野草紹介】秋の七草の一つB.「オミナエシ」が咲いています。

●古民家のひみつ

●古民家で一休み。⑥「旧中山家」に一步入ると涼しく感じます。白壁は日光を反射し茅葺き屋根と土壁は温度と湿度を調節してくれるスグレモノ。1674年に建てられたそうですから、先人の知恵は偉大です！

⑥旧中山家 (県指定文化財)



●ほろほろと流れ落ちる

●余裕があったら森沿いの木陰⑦水鶏坂を下りて仙人池へ。ほろほろ滝から池へと流れ落ちる音が、涼しさを演出します。ちなみに「ほろほろ」とは、葉や花、涙などが静かにこぼれ落ちる様子のこと。池のそばの展望デッキの下、日陰のベンチに腰を下ろして、のんびり水の音に耳を傾けるのも良いかもしれませんね。



⑦仙人池 (ほろほろ滝)

●夏の公園は日陰を選んでゆったりのおんびり。古河の歴史に思いを巡らせるのもいいですね。